

そほう

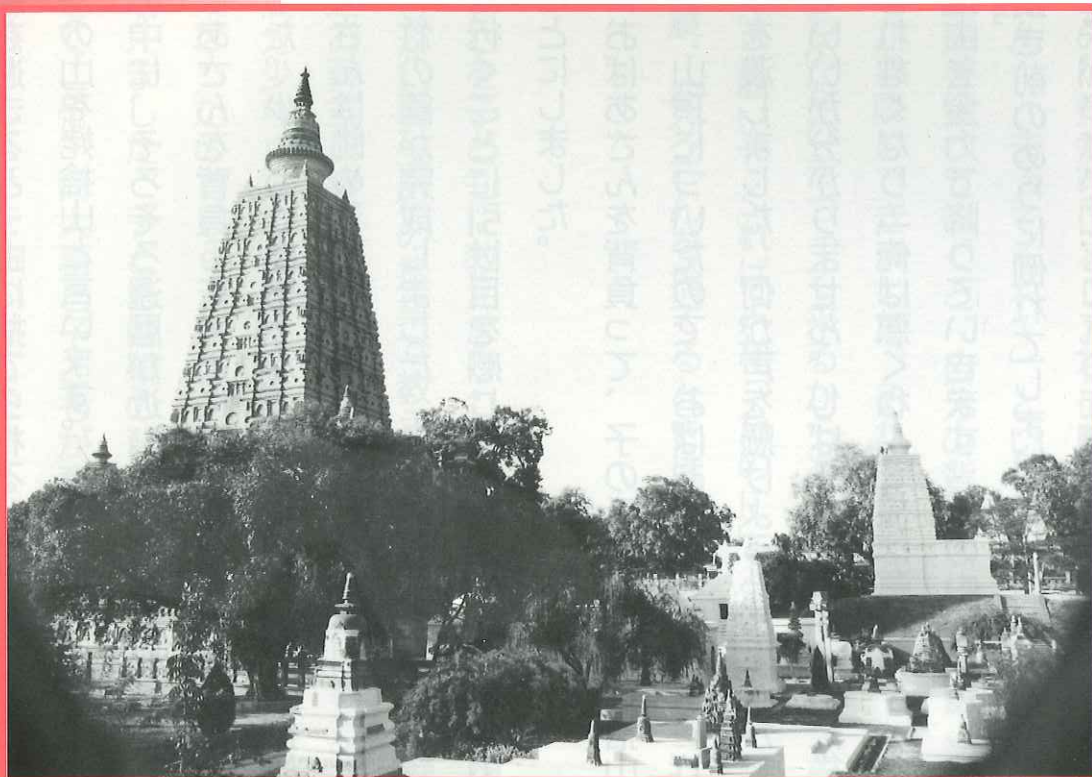
組

報

かながわ

No.19 2006.3.15

身近なお寺の情報誌



インド・ブダガヤの大塔 （撮影：故 永野彌然）

釈尊は35歳のとき、この地のピッパラ樹という木の下でさとりを開いた。爾来、その木を菩提樹（さとりの木）と呼ぶようになった。後年この事績を讃えるために堂が造営され、いく度の改修を経て5世紀から7世紀頃までには、現在のような形式の大塔が竣工したといわれる。大塔の高さは約50メートルで、その西側に接して金剛宝座と菩提樹がまつられている。



浄土真宗本願寺派

そほう かながわ 第19号

親の背を見て子は育つ

青葉布教所 西法寺 西村 信也

昔、還暦を過ぎると、山に捨てられるという掟のある村がありました。その山を姥捨山と言います。

この村の中に、そろそろ還暦が近いおばあさんがいました。息子は、おばあさんを背負うて、山に連れて行く為の竹のかごを編み始めました。少しずつ出来上がっていく竹の籠を、複雑な気持ちでおばあさんは眺めていました。

数日後、竹の籠が完成しました。息子は、さすがに母親を姥捨山に連れて行くことに引け目を感じ、心細いので、自分の子を連れて行くことにしました。

竹の籠におばあさんを背負って、子の手を引いて姥捨山に登っていきます。山頂についたので、おばあさんを降ろし、竹の水筒とおにぎりを渡しました。何か声を懸けようと思いますが、なんと声をかけていいかわかりません。しばらく沈黙が続いた後、息子はいたたまれなくなり「俺は悪くねー 俺は悪くねー」と叫びながら、姥捨山を全力で降りていきます。山の中腹に差し掛かった頃、石に躓き前のめりに倒れてしまいました。この時我に返り、連れてきた子がいらないことに気づきました。どうしよう。再び姥

捨山に戻るのには気が引けるし、石に腰掛けて悩んでいると、上から「お父さんー まってくれー」という声が聞こえる。その声に向かって山道を登っていくと、自分の背丈よりも高い、竹の籠をひきづりながら降りてきました。それを見た父親は、

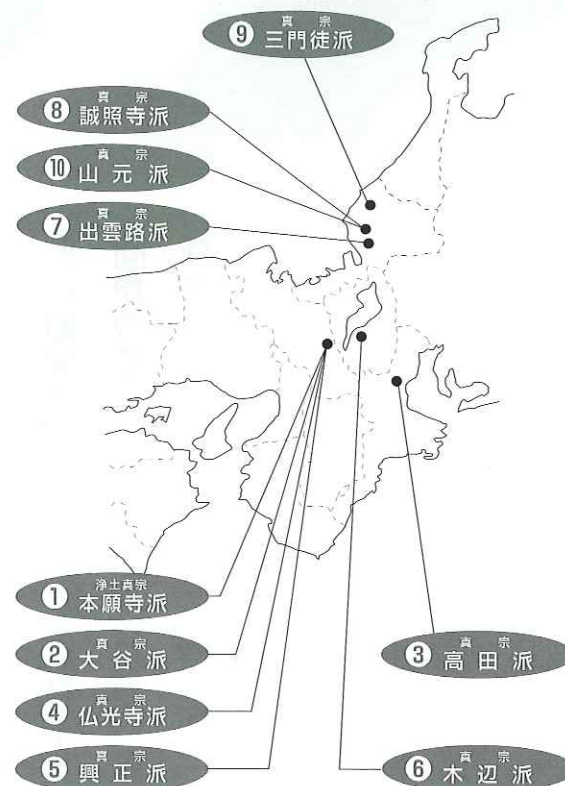
「そんなものをひきづって来るから遅くなるんだ。それはもう必要ないから置いてくればよかったのに」というと、その子が「いや今度、お父さんを捨てる時に必要になるから」といいました。

命の大切さを子どもに教えないといけないという声をよく聞きます。しかし、学校の授業で教えることで十分なのでしょうか？ 最近お葬式に参詣される方の数が、お通夜に参詣される方の数より随分少なくなりました。人が亡くなったぐらいでは仕事を休めなくなったのでしょうか？ 葬儀の後の法事を勤めなくなった人が増えました。子どもは親の背中を見て育ちます。親が命大事と生きてこそ、命大事と子どもが育ちます。大切に勤めましょう。毎日仏さまに手を合わせて生きていきましょう。

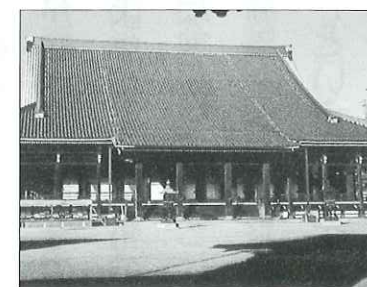
真宗十派の ご本山

特集

親鸞聖人を宗祖と仰ぐ浄土真宗の教団のなかでも、十の教団が「真宗教団連合」を結成して念仏興隆に歩調を合わせて取り組んでいます。これら真宗十派のご本山についてご紹介しましょう。



① 浄土真宗本願寺派 本山 本願寺(西本願寺) 京都市下京区堀川通花屋町下ル ☎075-371-5181



- JR京都駅より徒歩15分。市バスは京都駅烏丸中央口前より西本願寺前下車。
- 本願寺派は浄土真宗を代表する教団。大谷派と起源は一緒で、親鸞の遺骨を納めた大谷廟堂にはじまり、それが第3代覚如のときに本願寺として寺院化した。第8代蓮如の時代になると本願寺は一躍隆盛する。そして石山合戦の後、第11代蓮如のときに豊臣秀吉の寄進により京都堀川に寺基を定め現在に至っている。境内全体が世界遺産に指定されている。

② 真宗大谷派 本山 真宗本廟(東本願寺) 京都市下京区烏丸通七条上ル ☎075-371-9181



- JR京都駅より徒歩7分。市バスは七条烏丸バス停下車。地下鉄烏丸線五条駅より徒歩5分。
- 本願寺は、第11代蓮如亡きあと後継問題が起こり、結局は三男准如が継ぐことになった。長男教如は本願寺から退出したが、秀吉没後、徳川家康から烏丸六条の土地を寄進され、支持をする寺院や門徒とともに本願寺を別立、ここに本願寺は二つに分派した。ちなみに、「東本願寺」「西本願寺」は通称で、京の町における位置関係からそう呼ばれる。大谷派本山の東本願寺は正式には「真宗本廟」と呼ぶ。

③ 真宗高田派 本山 専修寺 三重県津市一身田町2819 ☎059-232-4171



- JR一身田駅下車徒歩5分
- 親鸞の門弟真仏や、顕智などの高田門徒により発展した教団。もとは下野(栃木県)を拠点としていたが、室町期に現在の三重県の地に移った。親鸞直筆の『三帖和讃』『西方指南鈔』などの国宝が残されている。県の名勝に指定されている安楽庵とその庭園も見どころである。

④ 真宗仏光寺派 本山 仏光寺 京都市下京区高倉通仏光寺下ル新開町397 ☎075-341-3321



- 地下鉄烏丸線四条駅下車徒歩2分。阪急京都線烏丸駅下車徒歩5分。
- 真仏の弟子源海の系統にはじまる教団。もとは京都山科にあり「興正寺」と称したが、第7代了源のときに京都東山渋谷に移転。また寺号も後醍醐天皇より「仏光寺」の名をたまり改称した。絵系図や名帳を使った布教で門徒が増え隆盛を誇った。だが第14代経豪が本願寺の蓮如に帰依し、それにあわせて多くの寺院や門徒が本願寺へと所属を変えた。天正14(1586)年、現在地に寺基を移した。

⑤ 真宗興正派 本山 興正寺 京都市下京区堀川通七条上ル ☎075-371-0075



- JR京都駅より徒歩15分。市バスでは七条堀川下車。
- 西本願寺の南隣に位置する。興正寺の起こりは、仏光寺第14代の経豪が、本願寺の蓮如に帰依したために、弟の経営に仏光寺を譲り、経豪自身は山科に一寺を建立し、これを仏光寺の旧称「興正寺」とつけたことに始まる。本願寺の脇門跡として本願寺とは長く行動をともにしてきた。明治9年に西本願寺から独立し興正派本山となった。

⑥ 真宗木辺派 本山 錦織寺 滋賀県野洲市木部826 ☎077-589-2648



- JR野洲駅よりバスで木部下車。
- もとは慈覚大師円仁が毘沙門天をまつために建立した天安堂であった。親鸞が関東から帰洛する途中に立ち寄り、霞ヶ浦から引き上げてきた阿弥陀如来像をここに安置した。これが縁となり「錦織寺」という寺号をたまり、その後、親鸞の門弟性信、さらに本願寺第3代覚如の子である存覚が入寺した。親鸞がここで『教行信証』を完成させたと伝えられ、御影堂には「聖人御満足の御影」がまつられている。

宗派の動き

■新門さまご結婚

このたび、大谷光淳新門さまと古川流豆美さまが、めでたくご結婚なされました。
ご門主さまお裏方さまのもとで、親鸞聖人のおすすすめくださった本願念仏の道を歩まれ、み教えをお伝えくださいますことを心から念じあげます。

教区の動き

■千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

九月十八日、本年第二十五回目を迎える浄土真宗本願寺派主催の「千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」が、国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑で厳修され、全国各地より多数の参拝者が訪れました。当日のご法要は荘厳な雅楽の音が流れ、非戦・平和の願いの中、参拝者全員で「正信偈」が勤められました。

■築地本願寺盆踊り

毎年、夏の恒例行事の「築地本願寺納涼盆踊り大会」が八月二日より五日までの四日間開催され、延べ三万人が参加されました。中日である四日には特別ゲストとしてタレント(ものまね)の神奈月さんが出演。何人もの芸能人のものまねを披露され、笑いの渦の中、皆それぞれに短い夏の夜を惜しむかのように楽しく過ごされました。

神奈川組の動き

■第七期連続研修会

連研(連続研修会)は、門信徒の皆さまに、浄土真宗のみ教えを体系的に学んでいただくことを目的に開催されています。第七期は二〇〇三年十月よりスタートし、偶数月の第三土曜日に開催され二〇〇五年八月をもって全十二回の研修が終了しました。十月には築地本願寺において修了式が行われました。第八期の連研は、本年六月より開催の予定ですので、ご参加をご希望の方は所属のお寺までお申し込みください。

■神奈川組仏教婦人会連盟「めぐみ会」

「めぐみ会」は、組内各寺院の婦人会の連盟です。毎年、総会・研修会を開催し、各婦人会の交流と親睦をはかっています。ダーナ(布施)活動として募金を行い、宗派を通して社会福祉に役立てる活動をしています。

■第三十五回南ブロックお寺の林間学校

毎年、神奈川・静岡・山梨三県より小学三年生・中学三年生の子供たちが集まり開催されています。昨年は七月二十七日(水)・二十九日(金)、山梨組の担当で山梨県立愛宕山少年自然の家にて開催されました。本年は、ご本山の念仏奉仕団に参加の予定です。ご希望の方は所属寺までお問い合わせください。開催日程は七月三十一日(月)・八月二日(水)。

【二〇〇五年度慶弔】

▼継職		十月
	高願寺(高元寺)	住職継職奉告法要勤修
▼結婚		二月
	最願寺住職	藤江義昭様ご結婚
▼往生		五月
	最乗寺住職	日野教昭様 九十二歳
	相模原布教所	(蓮向寺教会)前主管
	北條了介様	七十三歳
	寿福寺前住職	八十七歳
	多田晨向様	

福井県越前市清水頭町2-9 ☎0778-27-1224

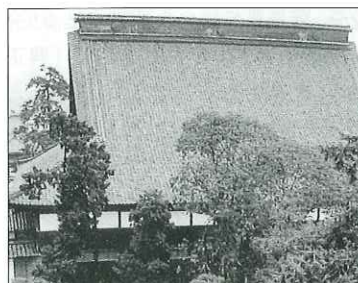
しんしゅう いずもじは とうしやうじ
⑦真宗出雲路派 本山 毫摂寺



- 武生市役所前(JR武生駅前)より五分市・池田方面行きバスで、五分市本山下下車徒歩3分。
- 寺伝では、京都出雲路(上京区寺町付近)に親鸞が開いた念仏道場が始まりとされる。その後、暦応元年(1338)に越前の鯖江に移転。さらに慶長元年(1596)に現在の地に移った。江戸中期には天台宗青蓮院の所属となり、明治初期には本願寺派に属し、その後まもなく独立した。

福井県鯖江市本町3丁目2-38 ☎0778-51-0139

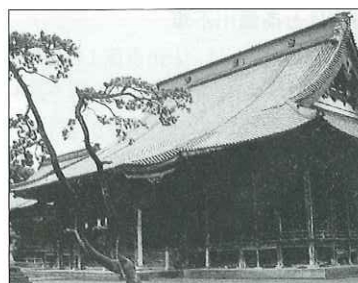
しんしゅう じやうしやうじは じやうしやうじ
⑧真宗誠照寺派 本山 誠照寺



- JR鯖江駅下車、徒歩15分。
- 承元元年(1208)、親鸞が越後に配流のとき、越前上野ヶ原の豪族波多野景之の別荘に滞在。このときの法縁で景之は念仏に帰依しこの別荘を念仏道場に改めたことが始まり。ここは親鸞を乗せた輿車にちなみ「車の道場」とも呼ばれた。その後景之は三門徒派の道性(親鸞の子益方入道)をこの道場に迎え入れ、次の如覚の代に現在地に移った。御影堂は明治10年の再建であるが県内最大の木造建築といわれる。

福井県福井市みのり2丁目3-7 ☎0776-36-0229

しんしゅう さんもんとは せんしやうじ
⑨真宗三門徒派 本山 専照寺



- JR福井駅からバスで大和紡績前下車。
- 正応3年(1290)、高田門徒出身の如導が、現在の福井市大町の地に専修寺を開いたことにはじまる。如導滅後、道性が現在の横越に證誠寺、如覚が鯖江の地に誠照寺と、それぞれ一派を立て、専修寺第4代浄一が中野の地に一字を建立し「専照寺」と改称した。これら三ヶ寺は越前で勢力を誇ったので三門徒衆と呼ばれた。現在地に移ったのは享保9年(1724)。明治初年に一時、大谷派に属し、その後まもなく独立して真宗三門徒派と称した。

福井県鯖江市横越町第13号43番地 ☎0778-51-0636

しんしゅう やまもととは じやうしやうじ
⑩真宗山元寺派 本山 證誠寺



- JR鯖江駅からバスで横越公民館前下車
- 寺伝では、親鸞が承元元年、越後に流される途中、越前の山元庄の草庵で布教したのがはじまりで、その後ここで親鸞の長男善鸞が布教、さらに善鸞の子淨如のときに「證誠寺」の寺号を賜ったとされる。ただし実際には三門徒派の如導の弟子道性が創建したと言われる。道性率いる横越門徒の拠点として、最盛期には滋賀から岐阜におよぶ勢力をもち横越本山といわれた。江戸中期には天台宗に属し、明治初期には本願寺派に属したが、まもなく独立した。

■神奈川組仏教壮年会

組内の各寺院から集まった会員が活発に活動中。宝光寺の藤田恭爾師を講師に「歎異抄に学ぶ」というテーマで年四回程の研修会を開催しています。

二〇〇五年十二月には、千葉組寺院への巡拝行脚を行い、六十名余りの参加者により、童謡「たぬきばやし」で有名な證誠寺など三ヶ寺を参拝しました。

■蓮向寺教会宗門包括

二〇〇五年一月より神奈川組に編入されました都市開教布教所「相模原布教所(相模原市当麻八六三三〇)」が、六月に非法入教会として宗門に包括され、「蓮向寺教会」となりました。

■高元寺寺号改称

二〇〇五年十二月より高元寺の寺号を真宗寺院設立時の寺号(高願寺)にもどしました。

自己を見失わない生き方



一

先日、十代後半ぐらいの少年が訪ねてきて、「御祓い^{おはらい}をしてもらえますか」と聞いてきました。

私が、「御祓いはできないなあ」と答えますと、「マジで」という反応。

わけを聞きますと、最近バイク仲間が次々と、転倒するなどして怪我をしているとのこと。彼らの分析では、病院の跡地で遊んだときに悪い霊にとりつかれたの

ではないかとのことでした。

私はその少年に、御祓いをしたとしても効き目はないことを話し、お祓いなんかするよりも、交通ルールを守って安全運転を心がけることの方が大事だと話して帰しましたが、はたして理解をしてくれたでしょうか。

二

暴走を繰り返しているながら、危ない目にあうと他者のせい

する。

他人ごとではありません。私たちの周囲にはそのようなことが沢山あります。そのような中にどっぷり浸かっているのが現実なのではないでしょうか。

一級建築士の構造計算書強度偽装の発覚に端を発した事件の証人喚問やインタビューなどを聞いていても、自分の非は認めず逃げてばかり、まるで被害者であったかのような感覚です。政治の世界も、まったく似たようなものです。むしろ勝てば官軍であり、

たような気がしてなりません。

三

どんなにこども染みた矛盾した発言をしても、だれも文句は言えない風潮があるようです。

四

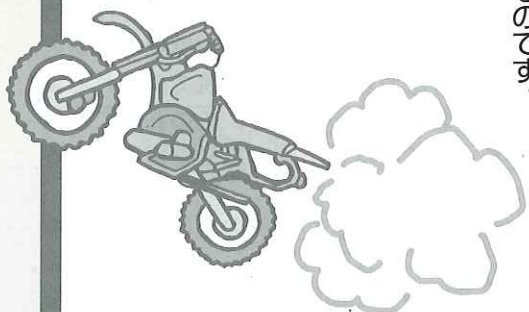
人間として、自身のあり方を問うこと。それはとても大切なことであると思います。

親鸞聖人は、善導大師の「外向けに賢者や善人らしく励む姿を現しているが、心のうちに偽りを抱いてはならない」とのことばを、「外向けに賢者や善人らしく励む姿を現してはならない。心のうちは偽りばかりだからだ」と読み替えて引用をしておられます。原文の意味を充分咀嚼した上で、独自の読み替えをしておられるのです。人間の心理への深い洞察を経て生れてきた読み

替えです。自己を見失わない生き方、それを教えるのが仏教であると思います。仏教は、世渡り術ではありません。自分自身に対する深い洞察を伴うものであり、それは自身に対する厳しい評価が伴います。ただし、悲観論や厭世論^{えんせいろん}に陥ることはありません。永遠の救いである「悟り」という大きな目標があるからこそ、自身に対する厳しさを持続することができのです。

法 燈 明

気になつてはいたのですが、最近の傾向として、人格的に優れていることを評価するのではなく、駆け引きに長けた方が勝者であるとの感覚が顕著になってきているような気がします。抜け目なく生きることが是とされ、人間としてのあり方を反省することすら自虐的と否定するような幼稚な楽観論に満ちています。気のせいであれば良いのですが、世間一般に注目される人々の人間的スケールが小さくなってき



…身近な仏教語…

「微妙」

先般、電車に乗っていると、若い学生の話が耳に入ってきました。話題は兎も角、同じ言葉を度々使っているのが気になってしまいました。言葉にはそれぞれ意味がある筈ですが、どうも大雑把になってきている、そんな感じがしました。

その時に良く聞いた言葉の一つ、「微妙」を取り上げてみます。漢字で表すのが普通ですが、最近はカタカナで「ビミョー」と表される場合もあるようです。「言葉に言い表せない程細かく複雑な」と言う意味ですが、悪い事を形容する時には使いませんでした。しかし、最近は「判断が難しい」、「明確に言い難い」と言った意味で使われ、良い事よりも悪い事を形容する場合に使われているようです。言葉では言い表せない事には違いないのですが、その使われ方の中には、本当は言いたいと言えないもどかしさが見え隠れしています。

もともと「微妙」と言う言葉は、かなり昔の経典から頻出するとありますから、仏教ではごく一般的に使われてきた言葉です。例えば、仏説無量寿経に「一々の諸仏、また百千の光明を放ちて、あまねく十方のために微妙の法を説きたまふ」とありますように、仏教の真理、教えやそれを悟る智慧の深遠ですぐれたさまを形容する言葉として使われていました。その言葉が日本に伝わり、基本的な意味はそのままに、読みは「めでたし」とあてていたようです。言葉で表現することができないほどすぐれている事を言い表すのですから、正確に伝えると言うより抽象的な意味を伝える言葉だったといえます。ですから、今のような使われ方の変化をもたらしたと言えるのかもしれませんが。

最近、日本語が見直される事が多くなりました。社会自体が変化し、その中で使われる言葉が変化するのは当然です。しかし、最近の言葉の中では、結果的に意味や使われ方が以前とはかなり違うものも多くなってきました。変化によって本来の言葉が持つ微妙な意味が失われるのは何かもったいない、その気持ちが言葉の見直しにつながっているのでしょうか。

テレホン法話

電話で仏さまのみ教えを！

●築地本願寺こころの電話
TEL.03(3541)0294

●長念寺テレホン法話
TEL 044(911)8282

ポストエイオス研究会
インターネットのホームページを開設。
法話や仏教情報などのページです。
<http://www.posteios.com>

ビハーラ電話相談
—老いの悩み、病の苦しみに—
相談日▶毎週月・金／午後2時～5時
浄土真宗東京ビハーラ(築地本願寺内)
TEL.03(5565)3418



ちよつと一息



人のわろきことはよくよくみゆるなり。
わが身のわろきことはおぼえざるものなり。

れんによしようにんごいちだい きき がき
(蓮如上人御一代記聞書195条)

私達は人の善し悪しを分別し裁いて日常を送っています。

そして、常に「あの人に比べれば私はましである」と自己肯定を繰り返しております。

阿弥陀仏の智慧の光は私の真のありようを照らし出してくださいます。朝に夕に阿弥陀仏にお参りさせていただき、私の心を静かにみつめる時間はとても大切です。

阿弥陀仏は私の心を映しだしてくださる鏡です。

11 知く 本願寺と落雁

落雁は、米などの穀類を炒って粉にし、砂糖や水飴を混ぜて木型に入れ、押し固めてつくります。穀類の種類によって麦落雁・豆落雁・粟落雁などの種類があります。また使う木型によって、いろいろの形の落雁があります。

昔から「お供物のお西」「仏華のお東」と言われてきました。西本願寺では、大きな法要の折りなどには、仏さまへのお供え物として、仏さまを囲むように何種類もの色とりどりのお供物が並びます。その種類とバリエーションは他に引けをとりません。一方、東本願寺では、お供えするお花の飾り方がすばらしいと言われてきたのです。

落雁はお供物として、本願寺をはじめ北陸地方では広く使われていたそうですが、木型に押し固めてつくる製法が開発されると、寺の紋を型どった「紋菓」と呼ばれる落雁が各寺院で作られるようになりました。それぞれのお寺でデザインし、そのお寺でなければいけないお菓子を、お茶会などで使ったり参詣者にふるまったのです。

落雁の名前の由来は諸説あるようですが、雪の上に雁の落ちる様に似ていることから、「落雁」と名づけたという説があります。

本願寺第5世・緯如上人しやくにょしやうにんが北陸をご巡拝の途中、この菓子を食べたときに、その名をつけたとする文献が残っています。また、緯如上人ではなく、本願寺第8世・蓮如上人が、石山寺で瀬田のあたりに雁の落ちるのを見た翌日に出されたお菓子にその名をつけたという説もあります。



精進料理



今日、仏事の席で精進料理をいただくことが少なくなっています。
精進料理とは、ご存知のように、魚介や肉類、また、蕈やこんにゃく類、それに酒類をつかわずに調理されたベジタリアン料理です。教えのうえで戒律をもたず、僧侶においても肉食禁帯の認められる浄土真宗においても、精進料理は仏事の席の料理として、深く浸透していた食事です。しかし、いまでは通夜葬儀の席でさえ精進料理が用意されることは非常に少なくなっているのが現状です。単に仏事の形態が変わったというのではなく、精進料理の衰退に伴って、私たちの心から何か大事なものが失われてしまったのではないかと、少し残念な気がするところです。飽食の時代といわれる今日、健康が人々の大きなテーマとなり、それに乗じて健康食品としての精進料理が注目されることはあっても、食を通じて「いのち」について考えてゆくという精進料理の本来の意義に注目されることは残念ながら無いようです。今一度本来の意義に立ちかえり、厳肅な気持ちで食糧に向かう。欲を満たすというような単純なものではなく、精進料理を食することから「いのち」について考えることが、いまの私たちに、とても必要なことなのかもしれません。

読んでほしい本の一冊



「みんな、みんなありがとう」 黒木 正弘・編(集英社)

浄土真宗では、ご法話を聞く事が大事にされてきました。ご法話は、話し手の特色を発揮されることが多いのですが、そのご法話を聞かせて頂く時、しばしば自らの体験が頭に浮かぶ事があります。話し手のご法話を通じて、いつのまにか自分の事に目を向けてしまうのです。

この著書は、浄土真宗の法話を聞いたまま文字に起こしたものです。ですから、話し手のご法話を出来るだけそのまま伝えようとする、編者の強い姿勢が感じられます。

よく、話し言葉をそのまま字に起こすと、読み難いばかりか、意味が不明な時もあります。この著書は話したものを出来るだけそのまま記したのですが、読みやすく明白な構成になっており、話し言葉と書き言葉の印象の違いを埋めようとする編者の努力が伺えます。

作家が小説を書き、それが沢山の人に読まれ、映画やドラマ等になる事があります。しかし、その場合なかなか原作を超えられない、そんな話をよく聞きます。原作をご存じの方々、それぞれの作品に対する想いがあるのでしょう。印象が違って満足に愉しむ事が出来ない、そんな声を時おり耳にします。原作は、映画やテレビのように映像がありません。ですから、それぞれ読み手の体験や経験を通して造られて行く世界が、多かれ少なかれあるのだと思います。それを映画やテレビの限られた世界で表現されると、すこし興が冷めてしまうと言う事なのでしょう。

この著書は、ご法話を現場そのままに伝えようといわれました。その姿勢が、理路整然とした文章よりも、かえって自らの体験や経験をおもいかえさせる、そんな感じにさせるのだと感じました。

我々は普段、話したり聞いたり、書いたり読んだり、日常の中で幾度となく繰り返されている事ですが、そのままたにお伝え、また受け取る事が大事と思わせられる一冊です。

お寺を訪ねて(18)

浄照寺は、東急田園都市線鷺沼駅から徒歩約8分、国道246号線に面しており周辺はマンションや住宅が建ち並んでいます。

浄照寺は、住職加藤孝充師が、平成5年10月川崎市高津区下作延に川崎布教所を開所したことに始まります。加藤孝充師は、福井県の本願寺派寺院(福井市浄因寺)の寺族として生まれ、単身関東の地に赴き、都市開教という大きな使命感を持ち川崎の地に開教拠点を設けました。

開所当初は、「ほのぼの法話会」という法座を開催し、初回から10名ほどの参加があったそうです。布教所の開所当初は「なかなか人が集まらない」という苦労話をよく耳にしますが、こちらでは、ご住職曰く「ご門徒さんのおかげで、開所時の苦労を感じることは少なかった」とのことです。現在もその当時のご門徒さんが浄照寺を支えて下さっています。

平成10年10月、現在の鷺沼の地に布教所を移転。その後に宗門包括の非法人教会「浄照教会」を設立しました。

平成16年3月には、神奈川県庁より、住職やご門徒の悲願であった宗教法人の設立が認可され、同時に寺号も「浄照寺」となりました。

現在、世間一般に、お寺に来られる方の多くは、儀式(葬儀・法事等)のみのご縁になってしまっています。しかし、加藤住職は、儀式だけで終わらせるのではなく、その方々を法話会のご縁に繋げたい、「多くの方が仏縁に出会っていくのが、私(住職)の勤め」と肝に銘じ、できるだけご門徒の皆さまがお参りしやすい環境作りにつとめているそうです。

その一環として、今まであまり浄土真宗のみ教えにご縁のなかった方を対象に、「ひらがな真宗講座(浄照寺連続研修会)」を、1年間奇数月に全6回開催しています。まず浄土真宗の基礎を学び、よろこびを共感していただき、毎月開かれる常例法話会に繋げたいという願いをもっています。

単身で始めたお寺も、現在では坊守さんと3人の子供さんとの5人家族です。ご長男(6歳)は「ぼくが後を継ぐ、浄照寺を大きくしていく」と言っているそうです。これからが楽しみです。

最後に住職から一言、「開教以来、ご門徒さんとともに歩んできた12年でした。これからよろしく願います。」

浄照寺ではホームページを開いています。その中で『浄照寺讃歌(作詞七里公章師(坊守兄)作曲加藤章子(坊守))』を聞くことができます。是非のぞいてみて下さい

ホームページアドレスは <http://浄照寺.jp> 又は <http://www.jyosyoji.com>



一神奈川組 24 番目のお寺一

浄照寺

川崎市宮前区鷺沼 2-5-7

お手々のしわとしわをあわせて…しあわせ

日本の美・日本の心をお届けします。



お仏壇・お墓
はせがわ



しあわせ少女ゆうかちゃん

業界初の上場企業
関東地区82店舗・全国で114店舗

～お仏壇、お仏具等～
特別価格
大ご奉仕中!!
※セール商品は除きます。

墓石・霊園も
好評お取り扱いしております。

横浜・川崎地区の店舗ご案内

金沢文庫店	横浜市金沢区谷津町352-7 オオサワヒルズ1F	☎0120-876-768
上大岡店	横浜市港南区日野5-1-25	☎0120-767-628
戸塚店	横浜市戸塚区柏尾町440-1	☎0120-767-627
今宿店	横浜市旭区今宿東町1621	☎0120-767-658
新杉田店	横浜市磯子区杉田1-2-3	☎0120-484-883
長津田店	横浜市緑区いぶき野3-1	☎0120-744-194
鶴見駒岡店	横浜市鶴見区駒岡町4-23-4	☎0120-176-761
日吉店	横浜市港北区日吉3-4-8 リバーサイド日吉	☎0120-639-010
鷺沼店	川崎市宮前区東有馬1-1-19	☎0120-876-768
川崎店	川崎市川崎区東田町2-1	☎0120-767-577
町田森野店	町田市旭町1-8-20	☎0120-768-201
向ヶ丘遊園店	川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘	☎0120-594-345

営業時間／午前10時～午後7時 日曜・祝日も営業いたしております。



お仏壇・お墓
はせがわ

昭和59年 京都西本願寺阿弥陀堂
昭和大修復事業
昭和62年 京都清水寺開山堂御厨子
三重塔堂内修復事業
昭和63年 福岡証券取引所
業界初の株式上場
平成6年 大阪証券取引所第2部
株式上場

製造部
(株)はせがわ美術工芸
(国宝美術品、寺院神社)
(株)はせがわ仏壇工房明日香工場
(純金箔仏壇)
(株)はせがわ仏壇工房大川工場
(唐木仏壇)

わたしたちのお寺です

浄土真宗本願寺派 神奈川組

えんこうじ 円光寺	〒210-0814 川崎市川崎区台町4-21 石川 康承 ☎044-266-2677
ほうえんじ 宝円寺	〒210-0838 川崎市川崎区境町5-10 飯田 琢亮 ☎044-222-3941
こうとくじ 光徳寺	〒210-0848 川崎市川崎区京町1-14-3 林 信順 ☎044-333-3997
しょうらくじ 正楽寺	〒212-0016 川崎市幸区南幸町2-49 佐々木俊博 ☎044-522-1961
こうがんじ 高願寺	〒211-0051 川崎市中原区宮内4-3-12 宮本 義宣 ☎044-777-6544
ちやうねんじ 長念寺	〒214-0014 川崎市多摩区登戸1416 小林 泰善 ☎044-911-2549
じやうねんじ 常念寺	〒215-0033 川崎市麻生区栗木203 古市 道仁 ☎044-988-0205
じやうしょうじ 浄照寺	〒216-0004 川崎市宮前区鷺沼2-5-7 加藤 孝充 ☎044-855-2780
ぜんりゅうじ 善龍寺	〒221-0811 横浜市神奈川区斎藤分町29-51 斎藤 幸紹 ☎045-491-9431
ぜんきやうじ 善教寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町2396 平等 勝尊 ☎045-541-7684
きやうかくじ 教覚寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町2395 (代務) 平等 勝尊 ☎045-531-5050
こうりんじ 光輪寺	〒223-0064 横浜市港北区下田町3-2-9 村石 恵照 ☎045-561-8671
とうぜんじ 東善寺	〒224-0001 横浜市都筑区中川7-18-29 長谷尾芳雄 ☎045-911-3509
ちやうとくじ 長徳寺	〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西3-9-1 平塚 大乘 ☎045-911-7351
じゅふくじ 寿福寺	〒224-0033 横浜市都筑区茅ヶ崎東1-7-1 多田 龍空 ☎045-942-3721
さいじやうじ 最乗寺	〒224-0034 横浜市都筑区勝田町1277 日野 教秀 ☎045-941-3541

じおんじ 慈恩寺	〒224-0055 横浜市都筑区加賀原2-18-1 小泉 敬信 ☎045-934-8648
さいしょうじ 西勝寺	〒225-0003 横浜市青葉区新石川1-10-8 藤下 悌乗 ☎045-911-0156
ちやうえんじ 長延寺	〒226-0015 横浜市緑区三保町2440 (代務) 高杉 俊教 ☎045-932-3348
れんこうじ 蓮向寺 教会	〒229-0016 相模原市当麻863-30 北條 大慈 ☎0427-77-3011
さいがんじ 最願寺	〒230-0001 横浜市鶴見区矢向4-19-18 藤江 義昭 ☎045-571-4694
ほうこうじ 宝光寺	〒231-0062 横浜市中区桜木町3-5 藤田 恭順 ☎045-201-3509
ぜんねんじ 善然寺	〒232-0061 横浜市南区大岡2-26-17 長谷山顕俊 ☎045-741-2351
せんしょうじ 宣正寺	〒232-0063 横浜市南区中里3-20-18 早島 大英 ☎045-731-2679
せいらいじ 清来寺	〒241-0034 横浜市旭区今宿南町1895 曾我 求真 ☎045-951-0012

本願寺築地別院都市開教布教所

横浜布教所 じやうれんじ 住蓮寺	〒240-0065 横浜市保土ヶ谷区和田2-12-19 開田 蓮成 ☎045-341-7455
三ツ境布教所 とくぞうじ 徳蔵寺	〒241-0816 横浜市旭区笹野台3-9-9 寺田 崇裕 ☎045-364-2266
磯子布教所 しんぎやうじ 真行寺	〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台25-47 中戸 達雄 ☎045-623-4480
青葉布教所 さいほうじ 西法寺	〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町567-13 西村 信也 ☎045-961-3737

地域内の東京教区寺院

なかみづみ 妙延寺	〒215-0002 川崎市麻生区多摩美1-27-1 山本 浩真 ☎044-966-5304
にしき 覺永寺	〒225-0004 横浜市青葉区元石川町6391 喜代多證宣 ☎045-901-0570

「神奈川組」とは…

私たちの教団（浄土真宗本願寺派）は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組

教区会議員／佐々木俊博	組長／小林 泰善	相談員／藤江 義昭
根本 猛（門徒）	副組長／長谷山顕俊	相談員補佐／古市 道仁
	副組長／早島 大英	

金子みすゞの詩 うた

金子みすゞは、一九〇三（明治三六）年、山口県長門市仙崎に生まれた。本名を金子テルといい、二十歳頃（大正十二年）から詩をつくり、雑誌に投稿を始めた。ペンネーム「金子みすゞ」で初めて投稿した詩が『童謡』婦人倶楽部『婦人画報』『金の星』四誌に一斉に掲載され、当時の童謡詩人たちのあこがれの星となった。しかし、二十六歳の若さで亡くなったため、その作品は散逸していたが、没後五十年余を経た一九八二年五百十二編の遺稿集が発見され、『金子みすゞ全集』（JULA出版局）が出版された。

熱心な念仏者だった金子みすゞ。彼女の哀しくて、でもかわいらしく、優しい詩の背景にはお念仏の教えが色濃くにじみ出ています。

『花のたましい』

散ったお花のたましいは、
み仏さまの花ぞのに、
ひとつ残らず生まれるの。

だって、お花はやさしくて、
おてんとさまが呼ぶときに、
ぱつとひらいて、ほほえんで、
蝶々にあまい蜜をやり、
人いや匂いをみなくれて、

風がおいでとよぶときに、
やはりすなおについてゆき、
なきがらさえも、ままごとの
御飯になつてくれるから。

—『金子みすゞ全集』
（JULA出版局）より—

親鸞聖人は、晩年「自然法爾」
を説かれ、はからうことなく
如来さまの仰せにすなをに
まかせる心が大事だと申さ
れています。

私たちは、こんな風になら
ないといけないとか、こうあ
りたいと考えて生きています。
でも、自分の思う通りに生き
られないのも私たちの現実
です。その思いは、いつの間
にかとわれに姿を変え、私を
支えてくださるおおきな「は
たらき」に気づくことすらも
できなくなってしまうです。
「嗚呼、こんなはずではなか
った」と嘆くことになりました。
花は何もはからわず、すな
おに生きているとみすゞは
うたいました。ひとの現実を
照射するように。



浄土真宗本願寺派（西本願寺）

横浜市都筑区勝田町1277

勝田山 最乗寺

電話045-941-3541

組報かながわ No.19

■発行日 2006年3月15日
(毎年1回3月発行)

■編集発行 浄土真宗本願寺派
東京教区神奈川組
基幹運動推進委員会

〒214-0014 川崎市多摩区登戸1416 長念寺内